

## I. 新年のご挨拶

日本内燃機関連合会  
会長 米澤 克夫\*

新年明けましておめでとうございます。

年頭に当たり、日本内燃機関連合会(日内連)を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は何といても新型コロナウイルスのパンデミックに振り回された 1 年となりました。私事で恐縮ですが、現在、世界最大の累積感染者数と死亡者数を記録しているアメリカの中でも昨年の春先には世界的にも圧倒的に多数の感染者が出ていたニューヨークで勤務しており、ニューヨークのマンハッタンという世界有数の大都市が Lock Downにより人影が消え、ゴースタウンのようになる様を目の前にして、とても現実の世界と思えないような体験をし、1 年近く日本に戻ることもままならない状況が続いています。



新型コロナウイルスの感染拡大により、様々な被害にあわれた皆様にこの場を借りてお見舞い申し上げます。

日内連事務局も在宅勤務を増やすなどの対応を余儀なくされましたが、おかげさまで会員各社、各団体の皆様のご支援により日内連の活動を滞りなく進めることができたことに御礼申し上げます。

昨年も世界各地で豪雨、大型台風、異常な乾燥と高温に伴う大規模な山火事など異常気象現象が続き、大きな被害が発生しました。激烈化する異常気象と温暖化ガス排出増大との因果関係は明確となり、温暖化ガス排出の削減の緊急性が高まってきています。昨年は日本において首相の交替があり、アメリカではまだまだ混乱が続いています(本稿執筆の 2020 年 12 月上旬時点)が、大統領選挙の結果では大統領が交代する見込みとなるなど、世界の指導者が交替する年ともなりました。上記のように温暖化ガス排出削減を急速に推し進める要求が高まっていることを背景に、世界各国政府は、コロナ禍後の経済復興対策の投資を Decarbonize に向けると宣言しており、内燃機関がいかに Green House Gas 排出を削減し地球温暖化対策に貢献できるかが増々重要な課題となっています。その課題に対応すべく、昨年はアンモニアや水素燃焼機関の開発がすすめられ、LNG燃料自動車運搬船が初航海するなどしました。

今年は昨年延期された東京オリンピックが無事に開催されれば、日本を中心としたアジアに世界の注目が集まる年になると期待されます。内燃機関の世界において、日本の NMA である日内連は極東地区のリーダとして内燃機関の技術的向上による Decarbonize に貢献していくことが重要な役割となっていると感じております。

引き続き、CIMAC との連携を図り ISO・JIS 関連の標準化事業を通して会員の皆様のお役に立つことができるよう尽力して参りますので関係各位のご支援、ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

ワクチンが開発され普及が始まったとはいえ、まだまだ、新型コロナウイルスのパンデミック終息のめどはたっていない状況ですが、本年が会員の皆様とご家族にとり、健康で実りの多い年となることを祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。